

## 互いに励まし合おう

父の日の今日、長年私が溜めて来た名言のいくつかを紹介したいと思います。まずは、このユーモアたっぷりの Mark Twain の言葉からです。

『私が14歳の少年だった頃、父は本当に無知で、私はこの親父と一緒にいるのが耐えられなかった。けれども私が21歳になった時、7年の間に、父が信じられない程成長していてビックリした。』

同じ感覚で Margaret Truman は言っています。

『自分が成長して、父から少し引いてみた時、もしくは、独立し実家を離れて初めて、その時に、その偉大さを計る事が出来るようになり、心から感謝するようになる。』

ビリーグラハムはこう言いました。

『良い父親は、最も歌にならず、報道されず、気づかれない。それでいて、我々社会の中で最も価値のある資産だ。』

最後に、この話が全てを物語っていると思います。

『ある晩、父親は偶然、息子の祈りを耳にします。その祈りとはこうでした。

「神様。ぼくも、お父さんのような男にしてください。」

その晩、父も祈りました。

「神様。私を、息子が思っているような男にしてください。』

“彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。” (マラキ 4:6)

“正しい者の父は大いに楽しみ、知恵のある子を産んだものはその子を喜ぶ。” (箴言 23:24)

どうぞ、お父さん方はご起立ください。この機会に、皆さんを讃え、皆さんの為にお祈りし、祝福したいと思います。父というのは、最も大変な仕事です。これまでに私は、いくつかの事業を始めて、運営し、売却しました。これまでに私は、牧師となり、教会を立ち上げてきました。それら全部をひっくるめても、神にかなった父親としての責任とは比べものにはなりません。ですので、祈りましょう。私たちには、本当に祈りが必要だと思いませんか？

愛する天のお父様。父の日を祝うにあたって、私たちは何よりもまず、天の父であるあなたを讃えます。天のお父様。私たちはあなたを祝福します。あなたに栄光をもたらしたいと思います。そしてこの地上の父親として、私たちは天の父であるあなたを喜ばせる事が出来ますように。私たちは、あなたの目に正しい事を行いたいと思っています。しかし、それはあなたが聖霊の力によって私たちを強めてくれるのでなければ、神に任命された男となる事は不可能です。私も含め、ここに立っている男性達は全員へりくだってお祈りします。あなたが、その恵みを私たちに与えてください。このお祈りを、イエス

様の御名によって捧げます。アーメン。

今日は、特別預言アップデートとして、少し違った事を行いたいと思います。私はずっと主を祈り求めて、実は断食もした結果、今日、主がこれをするようにと導かれていると感じたのです。また、私はこの日をとても楽しみにしていました。これを行う理由は2つあります。先週、第二コリントの手紙の学びを終えました。新約聖書の書ごと、章ごと、節ごとの学びはこれからも続けますが、ここまで来るのに11年かかりました。次の書は、ガラテヤ人への手紙です。御心であればですが。来週は、私は出かけますので、来週の日曜は、預言アップデートはありません。

今日の特別預言アップデートのタイトルは、

「互いに励まし合おう。」

第一テサロニケ 4:16-5:11 までを一緒に読みたいと思います。使徒パウロが、聖霊によってテサロニケの教会に書いています。

“主は、号令と御使いのかしらの声と、神のラツパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。”（第一テサロニケ 4:16-18）

もしくは、別の訳では、『このことばをもって、互いに励まし合いなさい』となっているでしょう。

“兄弟たち。それらがいつなのか、まだどういう時かについては、あなたがたは私たちに書いてもらう必要がありません。主の日が夜中の盗人のように来るということは、あなたがた自身がよく承知しているからです。人々が「平和だ。安全だ。」と言っているそのようなときに——”

（第一テサロニケ 5:1-3）

もしくは、別の訳では、「平和だ。安心だ。」と言っているようなそのときに、です。

“——突如として滅びが彼らに襲いかかります。ちょうど妊婦の産みの苦しみが臨むようなもので、それをのがれることは決してできません。しかし、兄弟たち。あなたがたは暗やみの中にはいないのですから、その日が、盗人のようにあなたがたを襲うことはありません。あなたがたはみな、光の子ども、昼の子どもだからです。私たちは、夜や暗やみの者ではありません。ですから、ほかの人々のように眠っていないで、目をさまして、慎み深くしていきましょう。眠る者は夜眠り、酔う者は夜酔うからです。しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの望みをかぶととしてかぶって、慎み深くしていきましょう。神は、私たちが御怒りに会うようにお定めになったのではなく、主イエス・キリストにあって救いを得るようにお定めになったからです。主が私たちのために死んでくださったのは、私たちが、目ざめていても、眠っていても、主とともに生きるためです。ですから——”

(第一テサロニケ 5:3-11)

ここで、また出てきましたよ。

“——あなたがたは、今しているとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。”

(第一テサロニケ 5:11)

では、一緒に祈りましょう。

愛なる、天のお父様。あなたがいつもして下さるように、今回も、聖霊によって私たちを助けてください。私たちの心を落ち着かせ、あなたと、今日あなたが私たちの為に用意しておられるものに、私たちの意識を集中させる事が出来ますように。主よ。聖霊様のささやくような小さい声で、あなたが私たちのいのちに語りかけられることを聞きたいと願っています。ですから主よ。どうぞお話しください。あなたのしもべは聞いております。このお祈りを、イエスの御名によってお捧げいたします。アーメン。

ここ何か月もの間、主が私に多くの事を語り掛けてくださいました。その内の一つは、今日、キリストの体の中の多くの方が、失望して、とても疲れていると言うものでした。これは、牧師として私がこれまでに見た事もないような状態です。私のもとに寄せられる祈りのリクエストが、Eメールであれ、会話の中であれ、それが共通事項になっている気がします。皆、とても疲れていて、失望しています。明らかに、テサロニケのクリスチャン達と同じ状況です。彼らは、とても失望していた為に、パウロがこれを書いて、励ましたのです。また面白いのが、彼らが励ましと慰めが必要なほどに、失望していた理由と言うのが、キリストの来臨に関係していたのです。実は、当時その教会に偽の教えがはびこっていたのです。パウロは、彼らに騙されないように、無知にならないようにと、熱心に勧めていたのです。彼は、教会の携挙について、明確にしました。だから、このテサロニケ人への手紙の第一、第二があるのです。パウロは、最愛の人をキリストにあって亡くした人達を励まそうとしているのです。携挙が起こると、キリストにあって死んだ人達がどうなるのか、彼らはとても混乱していました。キリストを信じて亡くなった親達、友達、家族、愛する者たちはどうなるのか？その事を、彼らは嘆いていたようで、悲しみが失望になっていたようです。

私が面白いと思ったのは、パウロは励ますだけでなく、“このことば”で互いに励ますように、熱心に勧めました。どの“ことば”でしょうか？希望のことば、慰めのことば、すぐに主が戻って来られる、ということばです。さらに面白いのが、パウロ自身が、自分の生きている間に携挙が起こると期待していたのです。彼がこう言っているのが分かりますか？

「生き残っている“私たち”」

パウロは、自分が生きている間に、主がすぐにも戻って来られると、真に期待していたのです。そして、それは神の采配だと私は言いたいのです。主がすぐにも戻って来られると言う、パウロの期待が、彼が乗り越えたすべての困難や苦痛、試練、患難を耐え抜く力になったのだと私は思います。最近の、第一、第二コリント人への手紙の学びを共にされた方はおわかりでしょう。彼は、実にたくさんの苦難を通りました。彼が、ミニストリーの中で経験したあらゆる苦難について、彼が列挙しているのを、私達は読み、調べ、学びましたが、主の来臨が、彼に耐え抜く真の力を与えたのだと、私は思うのです。彼は、ローマ人への手紙 8:18 で、このように言っています。

“現在の苦しみは、将来わたしたちに現わされるはずの栄光に比べると、取るに足りないと思  
います。”（ローマ8:18）

言い換えれば、パウロはこう言っているのです。

「確かに、私は多くの苦しみを受けました。多くの困難をくぐり抜けてきました。多くの事を、耐え抜  
いてきました。しかし、この先に待ち構える栄光にすれば、それらの事は、同じレベルで比べる価値も  
ない。」

彼は、競争を走りながら、褒美に目を据えていたのです。使徒の働きには、パウロの言葉をルカが書い  
ています。

“いま私は、心を縛られて、エルサレムに上る途中です。そこで私にどんなことが起こるのか分かりま  
せん。ただわかっているのは、聖霊がどの町でも私にはっきりとあかしされて、なわめと苦しみが私を  
待っていると言われることです。けれども、——”（使徒の働き 20:22-23）

彼は言います。

「これらのどれも、私を動かしはしません。」

「こんな事で、私は揺れたり、動揺したりしません。」

“けれども、私が自分の走るべき行程を走り尽くし、主イエスから受けた、神の恵みの福音を明かし  
する任務を果たし終えることが出来るなら、私のいのちは少しも惜しいとは思いません。”

（使徒の働き 20:24）

これが、競争を走り抜いた男です。これが、競争の後に何が待っているのかを知り、競争を終えた男で  
す。彼は人生の最後に、第二テモテ 4:7-8 でテモテにこう書いています。彼の言葉を聞いてください。

“私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。今からは、義の栄冠が私のた  
めに用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるの  
です。私だけでなく、主の現れを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。

（第二テモテ 4:7-8）

誰の事を言っているのか、分かりますか？皆さんと私ですよ。パウロのように、主の現れを慕っている  
者、見ている者、待ち望んでいる者、目を見張っている者には、**だれにでも**授けてくださるのです。

これが、パウロに勇敢に戦う力を与えたのです。彼は、全ての困難の中で、耐え抜き、諦めず、さじを  
投げず、競争をやめてしまわず、最後までしっかりと走り終え、信仰を守りました。世の中が、あまり  
にも乱用するので、私はこういう言い方をするのは嫌いなのですが、それでも、これが彼の『成功の秘  
訣』だったのです。世が、この言葉をすっかり乗っ取ってしまったのが残念でなりません。ともか  
く、使徒パウロが最後まで勇敢に戦い続けられた秘訣を煮詰めて行くと、最後まで競争を終え、最後ま  
で信仰を保ったのは、これがあったからです。主の来臨を彼は待ち望み、彼は愛し、彼は目を見張り続

けた。その日、彼に何が用意されているのか、彼は知っていたからです。ちなみに、これは古代の競争の描写で、現代のオリンピックです。そして、ここではキリストの裁きの御座を示していて、大きな白い御座とは違います。キリストの裁きの御座とは、オリンピックの審判が座る席で、競争を終え勝った者、勇敢に戦った者、信仰を保った者に褒美として義の冠を与えます。これは、当時のような朽ちる葉っぱの冠でなく、義の冠です。かの日には、正しい審判者である主が、いわば、そこで耐えた者、主の現れを慕っている者には、誰にでも授けてくださるのです。

偉大な使徒パウロは、恐れに見舞われた事がない、と考える人が居るかもしれないので、一つお伝えします。恐れや失望は、彼にとっては日常茶飯事でした。使徒の働き 18:9-10 で、パウロは恐れでいっぱいだったのです。恐れに満たされていたために、主がパウロの前に幻で現れて、こういわなければなりませんでした。ルカがこう書いています。

*“ある夜、主は幻によってパウロに、「恐れなさい、——」（使徒の働き 18:9）*

どうして主は、パウロに幻で現れて、「恐れるな！」と言わなければならなかったのか？それは、パウロが恐れていたからです。ちなみに、彼は何度も恐れたと、コリントの人たちに認めています。彼は、何度も自分の命の危険を恐れたのです。彼は命がけだったのです。そこで主が言われたのです。

*“「恐れなさい、語り続けなさい。黙ってはいけません。わたしがあなたとともにいるのだ。だれもあなたを襲って、危害を加える者はいない。この町には、わたしの民がたくさんいるから。」と言われた。”  
(使徒の働き 18:10)*

彼がとても恐れた町がコリントだったとは、皮肉だと私は思いました。彼は、コリントで何が待ち受けているかを知っていたのです。この世俗的で、神不在の町コリントに、彼は教会を創設したのです。ある人によれば、コリントと比べれば、ラスベガスなんて幼稚園のようなものだそうです。イメージが湧くでしょうか？特にラスベガスに行かれる方々には。言っておきますが、私は一度もラスベガスに言った事はありません。でも、もし行くとするなら、あちらにある素晴らしい教会を訪れるでしょう。第二コリント 1:8 で、パウロは命さえ危うくなったと言っています。

*“兄弟たちよ。私がアジアであった苦しみについて、ぜひ知っておいてください。私たちは、非常に厳しい、耐えられないほどの圧迫を受け、ついにはいのちさえも危うくなり、” (第二コリント 1:8)*

今日の教会に、最も必要なものは何かと聞かれるなら、希望と励ましではないでしょうか。今日、多くの人が希望を失っていて、今日、多くの人が疲れ果てていて、今日、多くの人が失望していて、今日、多くの人が重い圧力と、日々の生活ストレスの下にあります。それは今が終わりの時だからです。そして、私達の生きる時代は、急速にどんどん困難になっています。これは、第二テモテ 3:1-5 でパウロがテモテに書いている事です。彼はこう言っています。

“終わりの日には、困難な時代がやって来ることをよく承知しておきなさい。そのときに人々は、自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、不遜な者、神をけがす者、両親に従わない者、感謝をすることを知らない者、汚れた者になり、情け知らずの者、和解しない者、そしる者、節制のない者、粗暴な者、善を好まない者になり、裏切る者、向こう見ずな者、慢心する者、神よりも快樂を愛する者になり、見えるところは敬虔であっても、その実を否定する者になるからです。こういう人々を避けなさい。(第二テモテ 3:1-5)

ところで、これの衝撃的なのは、これが教会に宛てて、教会について書かれている点です。テモテは教会の牧師だったのです。そしてパウロは、これが終わりの時の特徴であり、教会内で起こると言っているのです。恐らく、言うまでもなく、皆さんも同感でしょうが、今は困難な時代です。こんな事を言うともたきっと、デビー・ダウン（ネガティブな人）と言われるでしょうが。私個人的には、この先もっと悪くなると思っています。私の心に浮かぶのは、結婚生活で苦労している人、さらには、望まない離婚を突き付けられ絶望している人、私にその労苦は分かりませんが。それから、一人で子育てをしている人達。母子家庭で、出来る限りの事をして、日々やっとなら生きています。子どもを育てる為、最低限の必要を満たす為に。多くの場合が、足りないのです。

ここハワイでは、物価が高い為、皆さんの多くが、複数の仕事を掛け持ちしています。私の妻も、パートに出ています。その労苦は分かります。ハワイの物価は本当に高いですから。ここに来たいと言う人に、いつも言うのです。もちろん、来たいでしょう。本土からオアフに、ゲストスピーカーとして人を招待するのに、これまで一度も苦労したことはありません。オハイオで牧師をしていた頃は・・・オハイオに何も問題は無いのですが・・・あちらは違いました。しかしこちらでは、ゲストスピーカーを迎えるのに、困った事は一度もありません。

ともかく、とても大変です。皆出来る限りの事をしていきます。

それから人間関係の破綻があります。今日、多くの教会で、傷ついた人の間で、人間関係が破綻しています。人々が破綻しているのです。多くの方が、愛する人と疎遠になっています。特に、放蕩息子、放蕩娘を持った親達。彼らの心は、何度も何度も折れています。彼らは、子ども達が間違った選択をし、その恐ろしい結果に苦しむのを、ただ、なす術もなく、さらには絶望的に見ているしかありません。アルコールや、薬に走る人たちの絶望を想います。どうにか痛みを紛らわそうとするが、結局それに縛られて、さらに痛みが増していく。

私は度々、特に今日の父の日に思うのは、軍に入り、私達の国に仕えている人達の事です。彼らは多くの場合、長い間、家や家族から離れて過ごしています。彼らの子どもさん達、妻たちを想います。この父の日に、父親は遠く離れて仕えている。どれだけ辛い事だか、想像を絶するでしょう。だから私は、こういった国に仕えている人達を見かけると、進んで言って、握手をしてお礼を言うのです。それから、私達の社会に仕えている人達、警察官。警察官たちは、毎日命がけで仕えているのに、感謝もされず、歌にもならないヒーローとは、悲しい限りです。特に、我々の生きる今の時代のこの国は、自分がこんなことを目撃するとは、夢にも思いませんでしたが、警察官を暗殺しようとする者がいる。警察官の為に、お祈りください。彼らが守られるように。彼らはいつも家を出て、任務に就く度に、何も分からない家族には、大変な事です。彼らが日々直面している事。ここにも、警察官たちが居て、私も彼ら

を良く知り、彼らの事が大好きです。私は彼らを心から賞賛し、尊敬します。彼らがいつも行っている事を、いくつか聞きましたが、私は牧師の仕事が大変だと思っていたけれど、彼らが毎日直面している事と言ったら。

そして、精神的、肉体的な病気で床に就き、苦しんでいる人達。精神的、または肉体的な病気の絶望的な診断、さらにひどい場合は、末期的症状を告げられた人達。またはそこには、世話をする人達がいま。その人達の生活は一変します。彼らは、自分の事を後回しにして、愛する人を世話します。また、愛する人を亡くし、悲しみの中にいる人々の事を思います。その痛み、悲しみ、苦しみは、多くの場合、終わる事が無いように思えます。それだけでなく、肉体的、感情的にも、精神的にも、さらには霊的にも、苦勞が重くのしかかります。多くの場合、鬱に繋がりますが、それは肉体的にも霊的にも両方の領域で襲ってきます。それは、両方が繋がっているからです。事実、私達は感情的に疲れ切り、肉体的に疲れ果てると、霊的に鬱が入り込みます。

私が時々紹介している本に、David Martian Lloyd-Jones 著のタイトルは、「Spiritual Depression: It's causes and It's cure.」（霊的鬱：その原因と治療法）があります。これは必読です。私にとっては、長年の私の人生の中で、神がこれを使われました。この中から、少しだけ紹介したいと思います。

——鬱を促進させやすい、いくつかの病気があります。ロンドンで40年近く説教をした偉大な牧師、チャールズ・スパージョンも鬱になりました。彼は、時代を超えて偉大なる宣教師の一人です。この偉大なる男が、霊的鬱の対象になったのです。彼のケースでは、主な理由は間違いなく、最後には彼を死に至らしめた、痛風の苦しみでした。彼は、急激な形の霊的鬱に直面しなければなりません。これに関して、多くの方が私の所に来て話をしましたが、多くの場合、彼にとってそれは明確で、問題の原因は、主には肉体的なものです。一般的に、疲労、過勞、病気の枠に分ける事が出来るでしょう。霊的問題を、肉体的問題から切り離すことは出来ません。私達は、肉体、思考、霊の存在ですから。最も偉大で、最高のクリスチャン達は、肉体的に弱っている時が、他のどういう状態の時よりも、霊的鬱の攻撃に遭いやすいものです。これに関して、聖書の中で見事に記されています。単に肉体的な過勞かも知れませんが、仕事に辞めたのではなく、仕事に疲れたのでしょう。肉体的であれ、霊的であれ、どの領域であれ、働きづめで、エネルギーと肉体を酷使すると、働きすぎ、もしくは常に張りつめていると、病気になる。そして当然、それが問題の原因であれば、あなたには医学的な治療が必要です。旧約聖書の例を見てみましょう。エリヤがカルメル山の上で、英雄的な働きをした後に、霊的鬱に襲われた時、彼は、えにしだの木の下に座り、自分を哀れに思ったのです。しかし、彼に本当に必要だったのは、睡眠と食事でした。——

これに対して、私は「アーメン！」と言います。これは聖書的です。寝て食べる。これは聖書のこの部分に適っているのです。

——神はその両方を与えられた。

神は、霊的な助けを与える前に、休養と食事をお与えになったのです。——

つまり、私が言いたいのは、私達、イエス・キリストを信じ、従う者にとって、励ましと互いへの励ましが必要な時期があるとすれば、それは今でしょう。

次の質問は「どのようにして？」

私達に出来る、現実的な方法を3つ、提示したいと思います。私達が、自分を励まし、慰めて、同時に他を励まし、慰める事の出来る、3つの実践的な方法です。使徒パウロが、コリントの教会に書いています。

“神は、どのような苦しみのときにも、私達を慰めてくださいます。こうして、私達も、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができるのです。”

(第二コリント1:4)

そこで、実践的な方法として、次の事をお勧めします。

まず一つ目。少し補足が必要ですが、自分の励みと、他の人にとって励みとなる一つ目は、救命隊員になる事です。警察ではなく。何年も前、チャック・スミス牧師が、この描写を話してくれて以来、私の中では、最高の描写の一つで、私も度々使ってきました。神も、私の人生の中で、長年使ってこられたものです。そして木曜日の夜、私はこの描写を自分の経験として、使わなければなりませんでした。何が起こったのかお話しします。

木曜日、良い牧師の私は、祈禱会の為、この素晴らしい教会に向かっていたのです。ところで、祈禱会の事ですが、まず第一に、ただ祈るために、皆さんの多くが来られた事に、私はとても驚き、感動しました。そして私達は、一時間以上祈っていましたが、ほんの1分ほどに感じられ、あっと言う間に時間が経って、教会として共に集まって祈る、非常にパワフルな時間となりました。この祈禱会に向かっている時でした。無免許、無保険で原付に乗っていた17歳の子に追突されたのです。「主よ。うそでしょ？」「ほんとですか？」「教会に向かっている道中に。分かりましたよ！」「第一回目の木曜夜の祈禱会に、私は遅れて行きますよ！」「どんな事になりますか？！」「どうしよう？どうしましょう？」

もちろん、原付に乗っていた彼の過失です。ちょっと、可愛そうでしたが。彼が私にぶつかってきた時、路肩に寄せたら、彼は足をさすりながらやってきて、私が最初に「大丈夫か？」と聞きました。彼は「大丈夫です。」と言い、次に私が聞いたのは「保険はかけてる？」です。彼は「かけてない。」と言いました。今や、私の2011年ヒュンダイソナタのバンパーはめちゃくちゃです。主が私に言われたのは、「どっちにしても、それは焼けるんだ」と。だから私は、「もうどうにでもなれ」と乗り越えました。面白いのが、911（緊急通報）に電話をしたら、警察がまずやって来て無事を確認したら、次にやってきたのが救急車です。そして救急車が止まると、救命隊が下りてきて、私達の無事を確認、私達が無事だと言うと、救急車は去って行きました。

チャックスミス牧師が話されたのは、カンファレンスの期間中に起きた交通事故で、誰かが赤信号を突っ込んで行ったために、交差点で事故が起きたのです。その場面を、彼は説明しながら言いました。最初に現場に到着したのは警察だった。私の時と同じです。今でも、チャックスミス牧師の経験を十分に使えるから、私自身の経験は必要なかったのですが。ともかく、チャックスミス牧師の描写を使いましょう。そこで彼が言ったのは、警察が現場に現れ、それから救急部隊が現場に現れた。ここで、現場

での警察の主な目的は、誰の過失か、誰が悪いのか、誰が赤信号を渡ったのか、誰が法を犯したのかを査定する事です。次に、救急部隊は、誰が悪いかは関係ありません。彼らが見ているのは、怪我人に手当てをする事だけです。ポイントは、救急部隊になりましょう、という事です。警察ではなく。今日のキリストの体の中には、警察があまりにも多すぎます。常に、誰が間違っているか、誰の過失かを探している人達。そして、傷を負った人に仕える救急部隊が少ない。教会は、罪人の病院であって、聖人の展示場ではない。と言われますが、あなたの隣に座っている人が、薄汚れて、腐敗した臭い罪人だと知っていますか？そして、あなたも、私もそうだと知っていますか？心が軽くなりませんか？これは真実です。そうでしょうか？私達は、皆、罪人です。私達は皆、傷を負っていて、私達は皆、崩壊した人間です。そして、良い知らせは、神は崩壊した人間を愛しておられるという事です。そして、神は崩壊した人間を直されます。そして神は、傷ついた人を癒され、神はそのようにして私達に仕えてくださるので

互いに励ます方法として、単に、互いの為に祈る事です。さらに、恐らくもっと大切なのは、互いに一緒に祈る事でしょう。何かが起こるのです。繰り返しますが、木曜日に教会の体で一緒に祈った時、これが起こったのです。大きな力が働いたのです。それを、神は任命されたのです。2人かそれ以上が集まって教会が祈る時、その教会の内側に、超自然的な力が働くのです。突然に、相違は横に置いておき、問題が視点の中心になるのです。物事が変わります。もちろん、祈りは物事を変えますが、祈りは祈り手を変えと言われていています。木曜夜の祈禱会で、私が期待して祈った事の一つは、「私達が祈る時、主よ、どうか大いなる形で動いてください。あなたが天で祈りを聞かれ、私達の中で動かされた事を疑う余地のないほどに。」私は、主がそれをしてくださったと思います。面白かったのは、オンラインチャーチの方のために、最初の部分だけをYoutubeにアップしたら、教会が集まって共に祈るのを見て、とても祝福されたと、多くの人がコメントをくれました。そしてもちろん、祈りのリクエストがなだれ込んできて、祈禱会の中でシェアしました。ちなみに、毎週日曜日にも祈禱会は行われています。礼拝の前の、7時45分から8時15分までの時間、ぜひご参加ください。今朝の祈禱会で話をしていたのですが、私達には、すべき事がまだまだあります。私達には、祈るべき事がたくさんあって、世界中から人々が、私達が教会として集まって祈るのを見ているのです。30日の間にいただいた祈りのリクエストだけで、2枚の紙の両面に小さな文字でいっぱいです。これから先、その量はどんどん増える気がしています。

ここ数週間、私達と一緒に礼拝している方ならお気づきでしょうが、ここ最近、新しく祈りに焦点を当てています。そして、これこそ主が導いておられるのだと感じています。私、個人的な主との歩みもそうですが、同時に、教会として共同体としてもです。問題は、今日の教会で、祈りが失われつつある事です。人と共に祈り、人の為に祈る代わりに、教会でクリスチャン達が、人のうわさ話をしていませんか？何度も言いますが、共に集まって、共に祈り、共に同意する時、大きな力が働くのです。神は個人個人だけでなく、教会の心にも大きく働かれます。そして私は、これが、サタンがクリスチャンとクリスチャンの教会を祈らせないようにし、成功している主な理由だと思っています。これが決定的要素になる事を、彼は知っているからです。共に祈る教会は、共に立ちますが、サタンは教会を憎む為、教会を分断させ破壊したいのです。だから、共に祈る事で教会を一つに保つなら、共に祈らない教会が、共に立

ってられない主な理由にはならないでしょうか？

最近の教会に、影響力がなくなったように感じるのは、恐らくこれを見れば十分でしょう。影響力が無くなったというのは、教会が欺きでいっぱいなのです。もはや、教会は迷い出た人に手を伸ばさず、まるで神が教会にお与えになった、最も強力な武器、祈りの武器を失ってしまったようです。だから、恐らく木曜の夜、私達は祈り、私は祈りました。主がその目をもって、あまねく全地を見渡し、その心のご自分と全く一つになっている人々、教会を探しておられる時、主が、私達を見つけてくださるよう、そして私達の力となり、私達を使ってくださいるよう。また、このコミュニティーに手が届くように、私達を強めてくださいますように。すぐそこにいる、失望した人たちに手が届くように、ドラック中毒の人達に手が届くように。

E.M Bounds の著書を引用したのですが、タイトルは「Possibilities of Prayer (祈りの可能性)」です。タイトルが、全てを物語っているといませんか？「Possibilities of Prayer (祈りの可能性)」です。私達は、「主に不可能なことはない。」と言いますよね？私は自分に言いますよ。私は本当にそれを信じているか？もし、私が本当にそれを信じているなら、私はどんな不可能な事にも、主を信頼しませんか？「主よ、あなたは何でもお出来になります。」「あなたにとって、難しい事など何もありません。」「あなたが下さった、この 3.1 エーカー (約 12600 m<sup>2</sup>) の土地を、人でいっぱいにする事も、あなたには可能です。」「あなたが奇跡的に私達の必要を満たして、私達に与えてくださったのです。あなたには、ここを人で満たす事も可能です。」「毎日毎日、毎晩毎晩、夜通しで、ここでミニストリーが行われますように。」

ただ祈るだけでも！ここで毎日、毎晩、祈禱会をしませんか？

可能性です。何年も前にある人から、こんな風に突き付けられた事があります。

「30 日間、祈りに専念しなさい。そうすれば、あなたの人生がすっかり変わる事を、神の権威によって、約束します。」

神が働くのを見るなら、祈らないなんて事は二度となくなるでしょう。全能なる神の御手が、動かれるのを見たなら。あなたの結婚生活で、あなたの家族の中で、あなたの教会の中で、あなたの職場で、あなたのビジネスで、神が動かれる。あなたが祈ったから。全能なる神の御手が、あなたのただ中で動くのです。あなたが祈ったからです！

私達が祈っている時、天がすっかり静まるのをご存知ですか？天で言うのです。「シーッ!!静かに！彼が祈ってる。」「彼が祈ってる。」そして、天全体が配置に着くのです。私達を愛する天の父が、私達が求めるのを、ただ待っておられるのです。

「わたしに何でも言いなさい。」「何でもわたしに求めなさい。あなたにあげよう。」「それが良いものなら、あなたに与えよう。」

この間、娘に言ったことがあります。「神様は、何でも私達が言ったものを与えてくれるの？」と娘が言うので、私は、いつそんなデボーションをしたのか考えていました。そのデボーションの時に言った事を、今娘は確認をしているのかもしれないと。そして言いました。

「そうだよ。でも、もしそれが最終的に私達に害になるとか、私達にとって良くないものなら、神様はお与えにならないよ。」

「でも逆に、それが良い物なら、もうお前のものだよ。」

「それはもう、あなたの物です。」

“すべての良い贈り物、また、全ての完全な賜物は、上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。父に移り変わりや、移り行く影はありません。”（ヤコブの手紙 1:17）

主は、賜物と使命を、後悔される事はありません。もしそれが良いものなら、神はあなたにお与えになります。ところで、神があなたにお与えになるのは、いつも完璧なタイミングです。早すぎず、遅すぎず、あなたもそれに感謝しますよ。神は、明日のマナを今日お与えになりません。あなたに必要なその日、その時に与えられる。それが良いものなら、主はあなたにお与えになります。これが、E.M Bounds からの言葉です。よく聞いてください。

「祈らない教会には、敗北が待っている。」

「たくさん祈る教会には、成功が約束されている。」

「超自然的な要素がなくては、教会は失敗し、それは、唯一祈りによってのみ、与えられるのだ。」

祈りです。ここから、3つ目に繋がります。

主が、すぐにも戻って来られる事について話す事で、私達は互いに励まし、自分を励ます事が出来る。私が主との歩の中で学んでいる事の一つは、天を待ち望んでいると、どんな事であれ、直面している困難を乗り越えるのが少し容易になる。なぜなら、

“今の時のいろいろな苦しみは、将来わたしたちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足らないものと私は考えます。”（ローマ 8:18）

それが、どんなに困難であろうと、それがどれほど困難になる可能性があっても、です。それでも問題があります。その問題とは、主の来臨を待ち望むゆえに、私達は落胆する事もあります。主が、すぐに来てくださらないから。主に来てほしいのに。また、主を知らない人達が、携挙の前に救われるようにと、私達の多くが祈り、待ち望み、心を痛め、泣き叫んでいます。一方では、主にすぐにでも来てほしくて、「主よ、早く来てください！」と祈りますが、他方では、「主よ、彼らは取り残られてしまいます。」と祈ります。私はこれを、『聖なる矛盾』と呼びますが、私達は、主の来臨を待ち望むあまり、葛藤します。

残りの時間で、少し私の話をシェアして、皆さんを励ましたいと思います。皆さんにご理解いただけると良いのですが、私はこの事について証言できます。神の良さについて、証言できます。

皆さんが直面しておられる状況が、どれほど大変で、悲痛なものであっても、神が、あなたにそれが乗り越えられるようにしてくださいます。違う言い方をしましょう。「大丈夫。」「全て、大丈夫です。」

「大丈夫じゃなくなるなんて、あり得ない。」これは、正しい英語ではない事も分かっていますよ。それが大丈夫でなければならない理由は、そうでなければ、神のご性質と矛盾するからです。神は、その

みことばを私達に与えてくださった。主のみことばです。何があっても、神が全てを働かせて益としてくださる。ある人は、「先生は、私の状況がどれほどひどいか、全く分かっていない。」と言うかもしれませんが。長年の間に、主が私に教えてくださったのは、状況がどれほど悪くても、その事で、神が、いつもどれほど良い方であるかを変える事は出来ない。最終的に決定するのは神です。

「先生、私は傷ついています。」「心が折れてしまいそうです。」「体の苦しみ、痛みがひどくて。」「どうして良いのか分かりません。」「もう限界です。」「希望が全く見えません。」「神が良い方という事は、分かっています。」「神が全てを働かせて益としてくださる事も、分かっています。」「それでも、ここからどんな益がもたらされるのか、全く見えないのです。」「天国が待っているというのは、いくらかの慰めや、少しの助けにはなるかもしれない。少しは苦痛が減るかも知れない。」「でも、私は毎日生きていくのに精一杯です。」「夜、横になっても、今夜もまた良く寝れないでしょう。これらの事を考えると寝れません。」「仮に眠ったとしても、目が覚めると、また問題が私に重くのしかかって寝れなくなるのです。」「そして朝目が覚めると、またそれが襲ってきて、私はそれに直面しなければなりません。」「ただ生きるだけで精一杯。」「主よ。この一日を生きて行けるように助けてください。辛いです。」

あなたを励ましたいのです。主は、ご存知です。主は、見ておられます。「主は、ご存知だ。」これは、あなたがしがみつくことの出来る約束です。時には、ギリギリのところではしがみついているかも知れない。しかし第一コリント 10:13 に約束されています。

*“神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせる事はなさらず、——”*

主は、それぞれの限界をご存知です。神は、あなたに耐えられないような試練は与えられず、その試練の中にあっても、

*“——試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えてくださいます。”*

*(第一コリント 10:13)*

ちなみに、その試練を耐え抜くための力が得られるところは、ただ一つ、試練の中だけです。そうでなければ、どんなに良いか。しかし、試練を耐え抜く力は、試練の中でしか得られないのです。あなたに必要な力が。「疲れ果てました」と言う人が居るかもしれません。ガラテヤ人への手紙 6:9 には、

*“善を行うのに飽いてはいけません。失望せずにいれば、時期が来て、刈り取る事になります。”*

*(ガラテヤ 6:9)*

聖書全体を通して、神の良さについての約束、約束に次ぐ約束、約束に次ぐ約束、さらなる約束がいくつも与えられています。天国のこちら側で、です。

「もちろん、栄光が待っているのは分かります。」「それと比べると、天国のこちら側での今の苦しみなんで、と言うのも分かります。」「それでも先生、天国のこちら側でも、何か励ましをくださいません

か?」「今日だけでいい。」「この週だけ、この月だけでも。」「どんな事でも構いません。」

詩編 27:1-14 は、私の人生の聖句で、実際、私はこれを「生きるか死ぬかの聖句」を呼んでいます。この聖句は、私達の娘ノエルが死んだ時、私を励ましてくれた兄弟を通して、神が私に与えてくださったのです。彼が、「あなたに渡したいみことばある。」と言ってくれたのが、詩編 27:13-14 でした。私は、ここを何度も読んでいましたが、それでも、この箇所が聖書から飛び出してきたのです。私の人生で最も辛く、最も暗い闇の経験を乗り越えられるようにと、私を愛しておられる天の父が、その大きな御腕で、御翼の影の下に、私を抱きしめ、守ってくれました。苦しみ、痛み、試練、困難、生きるか死ぬかの状況をいくつも経験している、イスラエルの詩人、ダビデの言葉を聞いてください。私は失望していたでしょう。私は諦めていたでしょう。私はさじを投げていたでしょう。

“ああ、私に、生ける者の地で、主のいつくしみを見る**ことが信じられなかったなら**——”  
(詩編 27:13)

「生ける者の地」とは、何か分かりますか？現在のここですよ。この地上、天国のこちら側、それが生ける者の地。

「え！？なに！？」「天国のこちら側、生ける者の地で、神のいつくしみを見る事が出来るの？」  
そうです！！でもそれには条件があります。「やっぱり、何か裏があると思った。」あなたがすべき事は、ただ待つだけです。

「ああ…、待つのは大っ嫌いだ！」待ちなさい。イザヤ書 30:18 にはこうあります。

“それゆえ、主はあなたがたに恵もうと待っておられ、あなたがたをあわれもうと立ち上がられる。”  
(イザヤ 30:18)

神が遅れるのは、神が否定しておられるのではない。ただ、待つのです。そうすれば分かります。ダビデの言葉をよく見てください。彼が言ったのは、「主のいつくしみを見る**ことがなかったら**」ではなく、「主のいつくしみを見る**ことが信じられなかったなら**。(詩編 27:13)」

信仰によって、です！

“信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。”(ヘブル 11:1)

言い換えれば、あなたは、その内見る事になる。いずれ、それを見るのです。「待っていなさい。その内分かるから。」皆さんも言うでしょう？「もう少しまってごらん。そうすれば分かるよ。」と、私はいつも、娘に言っています。いつ？どうして？あーだこーだと娘が言えば、「とにかく待ちなさい。その内分かるから。」と。

“待ち望め。主を。雄々しくあれ。心を強くせよ。待ち望め。主を。”(詩編 27:14)

そうすれば分かります。私が約束しますよ。私を証人台に立たせてください。私が誓って証言します

よ。私は目撃者ですから。私は、神のいつくしみを見たのです。娘が私の腕の中で死んでいった時、私はこの約束にすぎたのです。「分かりました、主よ。私はあなたのいつくしみを見ると信じます。」娘が天国の主のもとに行ってから、45日後に私達は受胎したのです。言っておきますが、これはアブラハムとサラの状況で、私達の年齢から言えば、いわゆる“船は出てしまった”のです。でも受胎した。私達は10年不妊治療をして、子供は絶対に授からないと言われていたのです。養子縁組をしようとしたのです。まるで私が妊娠したような言い方ですが、45日後に、私達は妊娠しました。その娘が今や10歳です。私は娘を見るたびに、いつも、天国のこちら側で、主のいつくしみを見るのです。私達の人生の喜びが、10歳！神が私達に祝福してくださった。これが、主のいつくしみですよ。私を証人台に立たせてください。主のいつくしみを、私が証言しましょう！あなたがどんな困難に直面しているとしても、辛いのは分かります。私にとっても、当時の痛みは、耐えがたいものでしたから。でもあなたは分かりますよ。見るのです。ただ、待ち望むのです。そうすれば分かります。あなたがそれを見るのが、楽しみですよ。その時、言ってあげますよ。「だから、あなたも見ると言ったでしょう！」と。生ける者の地で、主のいつくしみを。

皆さんの忍耐に感謝します。これで終わりですが、最後に次の事をお伝えしないと、重要な事を逃してしまいます。今日私がお伝えした事は全て、今日私が証言したことの全て、今日私が教えた事の全てに関して大切なのは、これらは全て、イエス・キリストによって救われた人にしか当てはまりません。これは、私達の祝福された望みなのです。テサロニケの教会に、使徒パウロは言いました。

「主が間もなく戻って来られる。」この祝福された希望によって、元気を出して、お互いに励まし合いなさい。」

“生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつもでも主とともにいることになります。”

(第一テサロニケ4:17)

ちなみに、キリストにある死者が、まず初めによみがえりますよ。それがどういう意味か分かりますか？それはつまり、私のお母さんと、願わくは私のお父さんも、確実に私の娘と、彼らが始めによみがえるのです。私が主に会う時に、彼らにもまた会うのです。これが私の励みです。これがあるから、一日がんばれる。これがあるから、夜通し寝る事が出来るのです。この祝福された望みに、すがりすくのです。祝福された望みです。これが、私の励みの源です。あなたも、今日それが欲しいですか？これまでに、一度も主の御名を呼び求めた事がない人は、どうか今日呼び求めてください。

「救いのABC」と呼ばれる形で、福音を子供にでも分かるように簡単にお伝えします。



今週は、聖句を交えてこれをお伝えしますので、他の人とシェアしたい方は、書き留めてください。しかし、これまで、一度も主を呼び求めた事の無い方は、どうか、こちらに集中してください。

### **A=Admit・Acknowledge (認める・認識する)**

あなたが罪人であり、救い主が必要であることを認める、もしくは認識するのです。

“「義人はいない。ひとりもない。」”(ローマ3:10)

救う方、イエス・キリストただ一人です。私達は皆、罪人として生まれた。だから、私達は全員新しく生まれなければならないのです。ローマ 3:23 にはこうあります。

“**すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることが出来ず**”(ローマ 3 : 23)

### **B=Believe (信じる)**

イエス・キリストが主であると、心で信じるのです。

“あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。”(ローマ 10:9)、

### **C=Call, Confess (呼ぶ、告白する)**

主の御名を呼び求めるのです。

“なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。”(ローマ 10:9)、

理由はこれです。

“人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。”(ローマ 10:10)

最後にこれ、ローマ 10:13. キーワードは「だれでも」です。皆さんここに注目してください。

“**主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる。**”(ローマ 10 : 13)

もし、これまでに一度も主の御名を呼び求めた事の無い人、口で告白し、あなたの罪が赦された事を主

に信頼した事の無い人は、どうか、今日それをしてください。

祈りましょう。

天のお父様。あなたへの感謝の気持ちを、言葉で的確に伝える事が出来ないのは、私だけではないはずです。あなたの愛する御子によって全額支払われ、私達に、永遠のいのちが無償で与えられました。あなたが、私達を愛するがゆえにです。お父様。この父の日に私達は、あなたに感謝します。あなたは、私達を心から愛してくださり、あなたのひとり子を私達の為、私達の代わりに死なせてくださいました。誰でも御子を信じる者、彼の御名を呼び求める者が、永遠に実在する地獄で滅びず、あなたと共に天国で永遠のいのちを生きるためです。主よ。今日、この素晴らしい教会で、もしくは世界のどこかでこれを観ている人に、一度もあなたの御名を呼び求めた事の無い人が居るのなら、どうか、今日が彼らの救いの日となりますように。このお祈りを、イエス様の御名によって捧げます。アーメン。

---

このメッセージはカルバリーチャペル カネオへの JD ファラグ牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、Calvary Chapel Kaneohe (英語)、「DIVINE US」(日本語)を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

---

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」 ヘブル4:7

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリーチャペルカネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>  
Calvary Chapel Kaneohe

47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by まい